

## 返礼品は「地域の復興」

広島修道大学ひろしま協創中学校3年 沖本 万泰

今年の元日に起こった衝撃的なニュースは、まだ我々の記憶に新しい。石川県を中心として起こった能登半島地震に日本中がショックを受けた。倒壊して傾いた建物や、大きく亀裂が入った道路がテレビで映し出され、私の心は強く痛んだ。真冬の北陸地方の寒さの中、電気や水道、ガスなどのライフラインも十分に機能しない状態での避難生活を思うと、想像しただけでも胸が締めつけられた。きっと私だけでなく、多くの人が同じ気持ちだったと思う。

そんなとき、母が私にある提案をしてきた。その内容とは、ふるさと納税をして、震災被害にあった人たちの役に立ててもらおう、というものだった。

ふるさと納税は、二〇〇八年から始まった、自分の故郷や応援したい自治体を選んで寄付金という形で納税することができる寄附金制度の一つだ。二千元を超える寄付を行った場合、所得税の還付や住民税の控除を受けることができる。そして、地域の名産などの返礼品ももらえるため、私は以前から身近に感じられる納税制度というイメージを持っていた。

しかし、今回母が提案してきたのは、被災地の自治体に返礼品を希望しない寄付を申し込むことによって、被災地で何らかの役に立ててもらおうという内容だった。広島から被災地は距離もあるし、今はまだ災害の直後で、何が必要な支援か判断もしづらい。でも、いつか必ずどこかのタイミングで、被災地には多くのお金が必要になる。そのために微力ではあるが、今できることを行動にしようと思い、私は母の提案に賛成した。早速ふるさと納税のサイトを見ると、既に災害支援を目的としたふるさと納税の受付が始まっていた。

「どうか、被災地域の役に立ちますように。」

母と、そう言いながら申し込んだ。

それから約三週間後、我が家にふるさと納税をした自治体から、お礼と寄附金受領証明書が届いた。まだ震災から一ヶ月も経たない時期にも関わらず、被災自治体の事務対応の素早さに、私はとても驚いた。しかし、届いた寄附金受領証明書を見たことで、無事に寄付金が受領されたことが実感でき、私は安堵することができた。

実は、これが我が家にとっての初めてのふるさと納税だった。初めてのふるさと納税が災害の復興支援というのが悲しいが、震災の直後に自分のできることを行動に移せたのは、ふるさと納税のおかげだとも思っている。そして、返礼品の希望はなしという形での申し込みではあったが、私は被災地域の復興こそが、一番の返礼品だと感じている。震災だけでなく、日本は災害大国だ。これを機に、ふるさと納税は災害支援にも繋がる制度だということを、ぜひ多くの人々に知ってほしい。